

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0572213734		
法人名	有限会社シャトル		
事業所名	グループホームのぞみ		
所在地	秋田県山本郡三種町鹿渡字東二本柳48-9		
自己評価作成日	平成30年1月15日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人 秋田県社会福祉事業団		
所在地	秋田市御所野下堤五丁目1番地の1		
訪問調査日	平成30年2月16日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

基本理念の「笑顔に満ちた環境を作り出す優しい心遣いを常に念頭に置き、起床から就寝までの生活の流れは個々の生活のリズムを基本として入居者様個々人の生活の場において生かされることを目指しております。駅に近い立地を生活に活かし日常生活は可能な限り地域に場を求め、地域での人間関係の結びつきを大切に地域の行事である町民祭へ入居者様の作品展や見学、お花見などを組み合わせ変化と刺激を取り込んでおります。また外部からの訪問やボランティア等の受入等は積極的にいき、イベントがあった場合には地域の方々をお招きし、グループホームや入居者様について理解していただいております。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

行事・ボランティア・防災・子供達との交流・見守り支援等々、地域との交流の巧みさには驚かされる。「手薄な時は出来る範囲で手伝うよ」と地域住民が言ってくれるまでの関係は羨ましい限りである。年間を通して実に多くの外出の機会を提供している。ホームの廊下には所狭しと外出時の笑顔の利用者の写真が掲示され、その外出の多さが一目瞭然。ハタハタを近隣ボランティアの方から沢山いただいたり、近隣住民が野菜コンテナに四季折々の野菜を詰め、届けてくれたりするので、地域に支えられていることが本当にありがたいとのこと。当日の午後はお好み焼きを楽しんでおり、とにかくこのホームは食事がいいとスタッフは自慢する。スタッフ一人ひとりが得意分野を充分発揮できるよう配慮していることが、利用者のみならず地域住民が楽しんでくれるホームの催しの実現につながっていると感じた。「防犯・防災は顔が見える関係づくり」「地域力こそ防災力」「こんなに楽しいホームもあるんだよ!」と云えるホームを常に目指しているホームである。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～53で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
54 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	61 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
55 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	62 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
56 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	63 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
57 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	64 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
58 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
59 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
60 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、代表者と管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念はホール・事務所等随所に掲示し、共有できるよう心掛けると共に入居者様が安心して穏やかに生活できるよう支援している。また日々のケアの中で迷いが生じた時のよりどころとして職員に意識されている。	スタッフ皆の意見を聞いて、開所当初に作成された「笑顔に満ち溢れた」から始まる理念は、パンフレットはもちろんのこと、ホールにも大きく掲げられている。この理念はスタッフにとって、事ある度に振り返る原点となっている。「こんなに楽しいホームもあるんだよ！」と言えるホームを常に目指している管理者、「利用者と一緒に、私たちも楽しんでます！」と言い切るスタッフから、この「笑顔に満ち溢れた」から始まる理念が活かされていることを実感できた。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	ホームでイベントを重ねる中で、馴染みになった地域の方々が頻りに訪ねて来たりお孫さんと共に遊びに来る他、町民祭や町内の福祉施設との交流、散歩時に近くの駅員さんと会話を持ったり等日常的に交流できている。	行事・ボランティア・防災・子供達との交流・見守り支援等々、地域との交流の巧みさには驚かされる。「手薄な時は出来る範囲で手伝うよ」と地域住民が言ってくれる関係は羨ましい限りである。家族の了解を得、警察や地域住民や地域事業所の協力を得る体制を築いている。秋田県出身の演歌歌手がホームに訪問した際は、100人を超す地域住民が訪れるとのことで、ホームを知らない住民はいないといっても過言ではない程である。	正に地域のホームとして住民から認知されており、今後とも現状を維持されるよう期待します。
3		○事業所の力を活かした地域とのつながり 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に伝え、地域貢献している	ホームでイベントや行事があった場合には地域に情報提供をしてグループホームや入居者様について理解してもらうと共に交流を深めている。また、地域包括支援センター主催のお茶カフェに参加したり高校生徒をお招きしたり外部からの訪問の受入等は積極的に行っている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月ごとに開催される運営推進会議では、グループホームの活動状況を説明し、建設的な意見交換がされ、評価やアドバイスを受け運営に反映させ実行に向けて努力をしている。	家族・地域住民・三種町社会福祉協議会・能代市社会福祉協議会・地域包括支援センターのメンバーで構成され、研修の内容や事故報告委員会では検討されたヒヤリハット・事故報告の内容にわたるまで報告されている。日常生活自立支援事業の生活支援員がホームの鍋っこ遠足にも参加してくれ、対象利用者は自慢気な様子だったとのこと。居宅支援事業所の介護支援専門員を講師に、10回シリーズで認知症に関する研修を実施しており、スタッフからとても勉強になったと好評とのこと。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者とは日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	入居者の状況変化や困難な課題にアドバイス、協力を得ながら取り組んでいる。市町村と連携を取り、家族と疎遠で訪問がない入居者が孤立しないように権利擁護の支援員の応援を得て面会者として対応してもらうなど協力体制を築く取り組みをしている。	地域包括支援センターメンバーが運営推進会議に毎回参加しており、ホームの運営に関する意見やアドバイスを専門の見地から発信してくれていることが、会議録から確認できた。福祉課福祉係の生活保護担当者との連携も確認できた。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	職場研修、外部研修を通し、身体拘束を正しく理解し全職員が身体拘束をしないケアに取り組んでいる。玄関脇に事務所があるため常に見届けできる環境となっており、夜間以外は玄関に鍵をかけることなく行動を制限しないよう配慮している。	骨折が治癒していない状態で、転倒のリスクの高い利用者に対するセンサー設置について、町担当者に身体拘束に該当するか問い合わせ、許可を得たうえでセンサーを導入したとのこと。マニュアルが文字だけだと分かりにくいとのスタッフの意見を踏まえ、あえて分かり易い絵のコピーをマニュアルに加え、周知徹底を図っていることが確認できた。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	外部・内部研修で身体拘束や虐待について全職員が参加して学び、発表を行いすべての職員が正しく認識している。また、面会に来られた方からの話を聞いたり様子の変化を見逃さないよう注意している。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	権利擁護に関する研修に参加していると共に学び得た情報を報告・発表し職員全員で共有している。権利擁護の制度を利用している入居者がおり、支払いや問題発生時の訪問を加え、定期的に生活支援員のサポートがある。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居される際は事前調査に出かけ、十分な契約の説明を行い、家族が抱えている心配事や疑問点を把握しご家族が理解・納得いくまで何度も丁寧に説明して入居される。また解約時にも十分な説明を行い理解・納得を得ている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議で事業所の運営や取り組みを報告している。他入居者やご家族の意向の把握のため会話の中での情報を家族連絡ノートに綴って職員会議で家族からの言葉を心に留め運営に反映するようにしている。	左袖を汚してしまう利用者について、娘さんとアイディアを出し合い対応策を考えた結果、娘さんが手作り何枚も腕カバーを作成してくれ、当日の昼食時に手作り腕カバーを愛用している様子を確認できた。低反発マットの活用に関しても、家族と連絡を取り合い、そのサイズ変更や活用方法について相談している。「家族面談ノート」を導入し、必要に応じスタッフと共有していることも確認できた。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員の意見や提案をまとめ、月1回の管理者会議に取り上げ、反映させている。また、職員が自由に意見を言える雰囲気作りに努めている。	ホーム定例会議では法人の管理者会議での議事を全てスタッフに報告することで、法人内の他の事業所の様子も理解できるよう配慮している。スタッフ同士が何でも言い合える環境にあり、互いに切磋琢磨する関係にある。スタッフ一人ひとりが得意分野を充分発揮できるよう配慮していることが、利用者のみならず地域住民が楽しんでくれるホームの催しの実現につながっていると感じた。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員の自己評価や人事考課を行い、それに伴い個人面談にて説明している。職員個々の努力・勤務状況を考慮し、夜勤手当のアップや年1回の昇給を行い、職員の向上心を高める環境を作っている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、代表者自身や管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員一人一人の技術や能力に合った研修への参加の確保を行い、研修後の情報や学び得たことを全職員に発表・意見交換している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、代表者自身や管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム協会に加入しており、地域グループホームや町内外の施設との交流する機会を設け、各々の事業所の改善に活かしている。		
II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	事前調査や家族の情報をもとに毎日の生活の中で困っていること、要望はないかなど目配り・気配り・心配りし、変化を察知するよう努めている。また、それらを介護記録に残し、職員全員が把握できるようにしている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	管理者・ケアマネだけでなく、職員全員が家族と面識を持ち、いつでも誰にでも要望や訴えを気兼ねなく話すことができる環境作りを心掛けている。		
17		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	可能な限り自宅で暮らしているような「普通の生活」の実現を目指している。ケアだけではなく生活を支える一人の家族として関わりを持つよう心掛けている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
18		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	利用者様本人の意思を尊重し、ご家族の思いを組み入れ利用者様も生活が向上できるように話し合いの場を設けている。		
19	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	地域の方との関係が途切れないよう地域行事に参加したり、町民祭掲示物の見学に行くことで知り合いと会話することが出来、楽しめる時間を設けている。又、馴染の理美容室や商店を利用継続している。	全利用者が地元三種町であり、ホームの催し物や外出で出会う住民と馴染みの関係である。家族や近隣者の訪問が頻繁なホームである。	
20		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	一人一人出来ること、興味のあることを見つけ出し、利用者全員が楽しめるよう職員が中に入り交流や会話がスムーズに出来るよう努めている。また、孤立しがちな利用者様にも不安を取り除くことができるよう輪の中に参加して頂き自然に体を動かして頂けるよう努めている。		
21		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退去後もご家族様や関係者様との関係を継続させて頂き、必要に応じて相談や支援をさせて頂いている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
22	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の生活の中で入居者様の楽しみ・生き甲斐を傾聴し、ご家族を交えて支援方法を検討している。入居者様の言動・表情から思いを汲み取り、状況に応じて柔軟に支援するよう努めている。	編み物好きの利用者が家族へのプレゼントを編んでいたりと、食器拭き・縫物・メモ帳作り・洗濯物干し等々、利用者一人ひとりの得意な分野を汲み取り、ホームでの何かしらの役割を担っている様子を確認できた。個々の趣味や得意とすること、生活歴を考慮し、信頼関係の構築に努めていることが伺える。	
23		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、生きがい、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	一人一人のバックグラウンドアセスメントを職員間で共有し、各入居者様に即した声掛けや支援に努めている。個々の趣味や得意とすること、生活歴を考慮し、貴重な体験談を傾聴し、職員が教わり入居者様との信頼関係の構築に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
24		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	申送りに入所者様の状況等を記入し、職員間で一日の状況を把握し、現場に入る。また、個人の体調の体調・意向に配慮して日常生活やレクリエーションを無理なく行っている。起床から就寝までの生活の流れは個々の生活のリズムを基本として入居者様個々人の生活の個性がグループホームで活かされることを目指す支援を行っている。		
25	(10)	○チームでつくる介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	入居者ごとに担当職員がおり、担当・本人・ご家族様の意向や心身状況の変化を的確に捉えるよう計画作成担当者が集約し、詳細にアセスメントしている。毎月の職員会議でカンファレンスを行い、月1回のモニタリングや3ヶ月に1回の評価により状況に即した見直しが出来ている。	毎月のケースカンファレンスでモニタリングを実施しており、ケース担当者制を導入して家族からの意見やアイデア、スタッフの様々な気づきを反映させ、計画作成者である管理者が集約し、介護計画を作成している。	
26		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	入居者様別に介護記録・バイタルチェック表・排泄チェック表を記入し、申送りにて再確認している。出勤時に申送りを受け、情報を共有し実践や介護計画の見直しに活かしている。		
27		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	駅前・総合支所が近い立地条件を活かし散歩がてらに職員さんと交流を図ったり、支所内の図書館を利用したり、小学校のマラソン大会の応援に参加し、地域の方々に声を掛けて頂くことで入居者様の活力と楽しみに繋がっている。		
28	(11)	○かかりつけ医、かかりつけ歯科医、かかりつけ薬局等の利用支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医、かかりつけ歯科医、かかりつけ薬局等と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居前からのかかりつけ医による往診・受診を継続し、本人やご家族の希望を大切にしている。かかりつけ医の週2回の往診や希望により訪問歯科を利用して口腔ケアなどのアドバイスを受けている。院内処方以外は近所の薬局に配達してもらい、副作用や服薬しやすいゼリー等のアドバイスを頂いている。	月2回の訪問看護を利用しており、利用者一人ひとりにコメントをいただき、法人内の看護師にその内容を報告し、利用者の健康管理を維持している。薬局とは何でも相談できる関係にあり、処方された薬を飲めない方への対処についてのアイデアについて助言を受けたとのこと。かかりつけ医の週2回の往診や訪問歯科を利用できる環境にある。	
29		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護師は常勤されていないが、主治医の往診時は日常の状況を報告を行っている。又、往診日にスムーズに受けられるように必要に応じて連絡を入れている。月2回の訪問看護による往診でさいな事などもアドバイスを受けるよう対応している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
30		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	御家族の都合がつかない時は職員が全面的にサポートを行っている。関係者と連絡を密に取り、情報交換し入退院に問題なく対応出来ている。		
31	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	利用者様・家族の意見を踏まえ主治医や家族と連絡を取りながら利用者様が安心して生活を支援できるよう関係者様と話し合い説明に納得して頂き、職員一同支援に取り組んでいる。 重度化や終末期の状態になるとホームとして出来ることと家族との思いをすり合わせ対応の方針を決めている。看取りに関する指針を作成し、主治医と連携を取り家族の変化する思いを確認しながらホーム全体で支援出来るよう取り組んでいる。	今までホームで看取った方はいないが、ホームで対応できるギリギリまで支援を続けた実績を有している。「住み慣れたところで最後までお世話して欲しい」との家族の意向に出来る限り寄り添いたいとの思いが伝わってくる。	
32		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の実践訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	普通救命救急の講習を職員全員受講している。緊急連絡網の作成・見直しを定期的に行い、緊急時すぐ対応できる場所に置いている。		
33	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	消防計画に基づき年2回の避難訓練・防災訓練を行い、地域の方の協力体制を築いている。また、地域の消防団からの協力も得られ、災害対策がより拡充されている。	自己評価の結果から、スタッフの多くの声を集約させた詳細な防災マニュアルを作成している。「防犯・防災は顔が見える関係づくり」「地域力こそ防災力」との管理者の言葉どおり地域の方で構成された「のぞみ協力隊」の存在には驚かされる。消防署や地元消防団の協力を得、高台までの実際の避難体験の実績を有する。	ホーム独自の詳細にわたる防災マニュアルを、今後とも継続して活用するよう期待します。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
34	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	勉強会や会議で利用者様に配慮した排泄時の声掛けや対応の確認、その他につうても意識の向上に努めている。本人にとっての誇りやプライバシーを見極め、その人に合わせた言葉かけや対応に配慮している。	利用者個々の生活歴が異なるように、言葉使いや声のトーンやタイミングも全て異なりますとのこと。あまり風呂に入りたがらなかった男性の利用者、生活歴をたどることで、今では「一番風呂ですよ」との声掛けにスムーズに入浴できるよう改善した事例を確認できた。	
35		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日常の会話の中から希望や要望など表現できるような支援を行っている。入居者様自身が生かされるよう、また意志を引き出せるよう、行動を起こすように言葉かけ・支援している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
36		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	入居者様個々人の生活の個性が生かされることを目指し、起床から就寝までの生活の流れは各々の入居者様の生活のリズムを基本として画一的なスケジュールを作らないよう一人ひとりの要望に添うように耳を傾け支援体制を整えている。		
37		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	行きつけの理・美容院に行きパーマをかけたり髪を染めたり地域の美容院の方がホームに来られ、顔そり・カットして頂いている。希望があればお店に購入に出掛けたり、地域の衣料品店からの訪問販売をお願いしたりしている。		
38	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	季節に応じて郷土料理を食べたり誕生会・クリスマス会など行事食など楽しんでいる。又、ドライブ・鍋っこと外での食事と一緒に楽しまれてる他、入居者様の好みを確認し、時には入居者様の意見でメニューを決めたりしている。また、食事の準備や後片付けも可能な限り入居者様が関わっている。	管理者の知り合いの料亭で会食した写真を家族に送付したが、家族から自分も行きたいとのコメントがあったとのこと。誕生会には手作りのケーキにコメントを添えることが習慣化している。通院の帰りに食べたい物を購入する機会も提供している。巻き寿司・親子丼・そば等が人気。ハタハタを近隣ボランティアの方から沢山いただいたり、近隣住民が野菜コンテナに四季折々の野菜を詰め、届けてくれたりするので、地域に支えられていることが本当にありがたいとのこと。当日の午後はお好み焼きを楽しんでおり、とにかくこのホームは食事がいいとスタッフは自慢する。	
39		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう状況を把握し、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量・水分量を利用者様個々に把握し、体調を職員間で共有しながら支援している。栄養が偏らないように献立にも工夫し栄養士のアドバイスも時に受けている。		
40		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後の口腔ケア時、義歯洗浄やブラッシングを行っている。又、カテキン活用でお茶うがいも実施している。嚥下の低下を防ぐ口腔体操の実施、訪問歯科医との提携もあり、アドバイスを受けている。		
41	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表及び利用者個々の行動パターンから声掛けのタイミングをみて支援している。失敗した場合でもさりげないケア、自尊心に配慮しながら対応している。夜間の見守り時はトイレ誘導などの支援している。	排泄チェック表を活用することで、個々の排泄パターンに沿い、できる限りの排泄の自立に向けた支援を心掛けている。トイレに和紙で装飾された「便所」との表示から、利用者の分かり易い表示を工夫していることが伺われた。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
42		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	食事や水分補給のチェックシートの活用。個々の食事摂取スピード・食事内容・形態・水分補給量を確認しながら調整している。便秘予防のために、食物繊維の多い食品を積極的に使い、消化のよい食材を選んでいる。好天日には野外で散歩したり廊下歩行・腹部マッサージを行っている。		
43	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングや健康状態に合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴前に各入居者様の心身・健康状態を把握したうえで一人ずつゆっくりと入浴していただいている。週3回の入浴を基本としているが一人ひとりの希望や状況により柔軟に対応している。	見守りのみの方が1名、他は2人もしくは3人での介助を要する現状にある。利用者個々が自分の入浴セットを準備し、前もって脱衣室の棚に持ち込むことが習慣化している。入浴剤を取り入れ、ゆっくりと入浴できるよう配慮している。	
44		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	各居室は冷暖房完備により個々の温度調節に対応している。居室には使い慣れた日用品を持ち込み、家庭を意識して安心して眠れるよう支援している。床に布団を敷いて寝ている入居者様やホールソファで休息をとられる入居者様もいる。		
45		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解に努めており、医療関係者の活用や服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	職員全員が把握できるようにノートを準備し変化があれば連絡ノートや申し送り理解できるようにしており、かかりつけ医やかかりつけ薬局に相談できる体制にある。また、必要に応じて看護師からも指導・助言を得ている。		
46		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	負担にならない程度に会話を楽しみながら家事手伝い、掃除などを行えるサポートして役割を持ち生き生きと過ごしている。食事やおやつ作り等、入居者様の経験や知恵を活かせる場面作り、昔を振り返りながら張り合いの持てる生活を支援している。貼り絵や編み物、歌を口づさむ等楽しまれている。		
47	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	個人の意見や気候を配慮し、外出・散歩・見学・食事会等の外出支援は日常的に行っている。外出時には地域のボランティアにも協力を得ている。近隣の公共施設への訪問や出掛けた先での地域交流や社会県での気分転換を図っている。町民祭には入居者様の作品を出展するなどし、出掛けた際は満足感や達成感を味わっていただく工夫をしている。	車酔いのためドライブに消極的な利用者が1名いるが、せっかくの皆とのドライブなので、是非一緒に参加させたいとの思いから、家族に相談し、酔い止めを服用し、車の前列に座ることで、ホーム全利用者でドライブできるようになったとのこと。年間を通して実に多くの外出の機会を提供している。雪が消え、春が訪れるのを楽しみにしている。ホームの廊下には所狭しと外出時の笑顔の利用者の写真が掲示され、その外出の多さが一目瞭然。運営推進会議議事録からも戸外に出かけられるよう取り組んでいるのが読み取れる。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
48		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	基本的に入居者様の預り金の管理は行っていないが、ご本人様の要求時にはホームの立て替え金でお買い物を楽しまれるなどして頂き、自分で選んだ物を自分で買う喜びを大切にしている。		
49		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	携帯電話を所持している利用者様には自由に使用して頂き、家族への電話を望む方には希望時にかけて頂いている。 毎年年賀状を書く等支援している。		
50	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、臭い、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	清掃はもちろん、トイレには”便所”と表示してわかりやすく、見えやすくを心掛けている。ホールや廊下には入居者様の作品や季節の絵や写真などで季節感を演出している。	ボランティアが作成した大きなアレンジメントフラワーが玄関に入るなり目に飛び込んでくる。年に4~5回、季節毎に飾りつけてくれるとのこと。秋田県出身の有名歌手がボランティアでホームを訪問する際は、特に豪華にしてもらえるとのこと。共用空間に不快な要素は全く感じられない。ホールには全利用者個々の大きな顔写真が掲示されている。	
51		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	会話が弾む利用者様同士にはソファとソファの間隔は近づけ気兼ねなく過ごして頂き、静寂を求められる方には時間をずらしてホールに来てもらうなど配慮している。居室の行き来は自由にしており、就寝以外は気兼ねなく訪室し合い会話を楽しんで頂いている。		
52	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	テレビ鑑賞を好む方には居室内に設置されており、負担にならない時間で楽しんで頂いている。また、それまでの生活スタイルを保つことができるよう本人にとってかけがえのない物を家族から教えてもらい居室に持ち込めるよう支援している。	パネルヒーターからは柔らかい温かさが感じられる。エアコンも各居室に設置され、補助暖房及び夏の暑さ対策に使用できる。毎朝の掃除にはできる範囲で本人も参加しており、清潔で過ごしやすい。誕生会のメッセージと顔写真が居室に飾られている。	
53		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	家事手伝いを進んで手伝って下さる利用者様にはできることならば参加して頂きしている。洗濯たたみや毎食前のおしぼりたたみを手伝っていただく等、自立した生活を怒れるよう支援している。		